

公共施設のあり方に関する意見交換会 議事録

丸岡地区

平成 23 年 10 月 26 日（木） 19:00～21:20 高棟公民館 3 階 大ホール

◆質疑応答の概要 【延べ 11 人質問】

野田委員(地域協議会)

資料 3 の公共施設の今後のあり方に関する市の方針は、どのような経過で定められたのでしょうか。この資料は、市だけの考えで作成したのでしょうか、それとも協議会等で議論がなされて作成したのでしょうか。

行政経営課長

合併後、数多く保有することになった公共施設について、そのあり方を見直そうと、平成 21 年度に着手し 2 年かけて施設の実態について調査・分析を行いました。施設数が約 300 にも及ぶことから 2 年という時間を要しました。

また、平成 22 年度には約 7,000 人を対象にアンケートを実施し、市民と利用者の意向把握も実施しております。

その後、地域協議会を始めとする市民代表者と意見交換をさせていただき、その状況を議会へも報告いたしました。議会からは「施設の実態は理解できたが、これからどのような方針で整理していくのか、市の考えを示すべきだ」とのご意見を頂き、副市長をトップに部長級職員で構成する行政改革推進本部会議において議論を重ね、本日の資料 3 で今後の方針を示させていただきました。

そのようなことから、外部の有識者を入れるなどして委員会を設置したということではありません。

大森会長(竹田の里づくり協議会)

公民館に対する坂井市の窓口は、「公民館(生涯学習)に関すること」「まちづくり協議会に関すること」で、窓口が別々となっています。予てから、どちらでもかまわないので一本化してほしいとお願いしています。5 年以内を目途に公民館の管理運営をまちづくり協議会にシフトするという方針の中で行政の窓口がなぜ一本化できていないのでしょうか。

また、まちづくり協議会への移行に伴いモデル公民館を設けていますがどのように進めていくのでしょうか。

行政経営課長

これからの公民館運営は、まちづくり協議会にシフトさせていただきたいということで、公民館の位置付けを教育部門から市長部局へ移行していく予定であります。これに伴い、さ

らにまちづくりの活性化を進めていきたいと考えております。

また、モデル地区を設けたのは、市としましても今のところ具体的にまちづくり協議会で担っていただける範囲を模索しているところでありまして、まちづくり協議会と話し合いながら、お互いに納得できる良い方法を作り上げていきたいということで設定させていただきました。まちづくり協議会が使い勝手のよい、そして管理運営しやすい方法を探っていきたいと考えています。

江川座長(福井県立大学)

これまで窓口が別々であったという実態はありますが、これを機にまちづくり協議会と公民館事業との一体化を進めることができるのではないのでしょうか。地域の方と市が目指している方向性は同じだと感じます。しかし、具体化という点ではこれからでありますので十分な議論をしていただきたいと思います。

大森会長(竹田の里づくり協議会)

旧丸岡町では公民館の呼称は「コミュニティー」でした。合併後、将来的には公民館で住民票の発行など、行政の一部の業務を担う機能を持たせるという計画もその当時お聞きしています。本日の資料ではそういった記述が見受けられませんが、行政機能を持たせるということを考えると「まちづくり協議会」でも担うことはできるのでしょうか。

また、合併後のまちづくり協議会の設立推進にあたっては、モデルを作ったわけではありません。公民館をまちづくり協議会にシフトするのにもモデルを作らず一斉スタートでもよいのではないのでしょうか。

江川座長(福井県立大学)

1点目の公民館機能であります。資料(資料3-P2の7項目)で考え方が示されております。特に①～③で公民館機能について具体的に定めています。市から補足があったらお願いします。

教育長

坂井市が誕生して6年目を迎えています。最初は運営管理面も公民館長の役割もすべて旧4町で異なっておりました。坂井市になり公民館のあり方を考えていこうということで、2年の年月を掛けて統一に向けて取り組んできました。一方で地域自治区制を採用し、広域行政になったことへの対応やきめ細かく行き届いたまちづくりを実現するためには、まちづくり協議会のお力もお借りしなければ行政だけでは達成が困難であります。そこで、まちづくり活動拠点として地域に身近な公民館を活用していただくことが一番ということで進めてまいりました。そのような中で、公民館に従事している館長や職員には、まちづくりの面での相談役や仲間・団体といったリーダー的役割が求められています。

これまで築いてきた協働のまちづくりをさらに公民館を使って輪を広げて行って欲しいということで、資料にお示しするような案になりました。

まちづくり協議会の現状を申しますと、地域によっては様々な活動を活発に実施しており、

地域の活性化に繋がっているケースもあります。そのような地域は、早く公民館の運営をまちづくり協議会に任せて欲しいという意見も出てきています。一方でそうでない地域があるのも事実です。市としてはいくつかの地域で先行的に取り組んでいただき、新たな道筋をつけていきたいと考えています。

また、ご意見のように将来的には公民館で住民票を取れるなど、身近な住民サービスが受けられるようになると良いと考えております。その場合には市職員の配置の問題もあり予算面とも合わせてこれからの課題としたらどうでしょうか。

竹内委員(地域協議会)

丸岡地区の公民館の稼働率は全体で14%であります。その内訳を見ると稼働の高い順から、磯部公民館の31%、高棕公民館の29%と続いています。それぞれ公民館エリアの人口を反映させた稼働率を見る必要もあるのではないのでしょうか。公民館エリアの人口規模が大きいくほど稼働率が高くなる傾向になるものと思われま。

また、稼働率というデータだけで市が方向性を出したのであれば問題だと思います。地域属性等のデータを基に分析を深掘りしていただきたい。磯部地区は人口が約6,000人で今も増えている現状でありまして、その辺りも考慮した方向性としていただきたい。

今市児童館は、磯部地区の区長会においては廃館の方向性で理解していますが、磯部公民館の分館(東部公民館)として地元で活用していきたい。

行政経営課 事務局

公民館の稼働率については、1日を午前、午後、夜間3つの時間帯に分けて、年間でどれくらい稼働しているかを示したものです。施設によっては、午前、午後、夜間など貸し出すパターンや1時間単位で貸し出すパターンなどありますが、貸し出し区分を1コマと考えます。各公民館にある和室、大会議室、調理室それぞれについて、1日利用可能な区分が何コマあり、何コマ利用されているのかを分析し、年間分をトータルしたのがこの利用稼働率です。従って、磯部公民館の場合は、公民館エリア人口が多い少ないは考慮せず、各部屋の利用できる状況に対して、実際にご利用いただいた割合が31%ということになります。さらに細かい分析をすると若年層や高齢者といった使用状況が見えてくることも考えられますが、今回は稼働の状況を客観的に分析しました。なお、今後の方向性につきましては稼働率だけの判断ではありません。

江川座長(福井県立大学)

この資料につきましては、全施設を横並びで見るということで適切であると思います。この他、個別の実情を理解するために必要な資料があれば、また地元からデータを吸いあげていただきたいと思います。

辻会長(たかむくのまちづくり協議会)

高棕西部地区の公民館と高棕地区の児童館が廃館ということであったので、各集落で意見を集約してきました。

1小学校-1公民館-1まちづくり協議会との考えですが、人口密度の高い春江町の1小

学校あたりの児童数と人口密度の低い坂井町の児童数には大きな格差が生じます。また、丸岡地区は第二公民館を3館減らすこととしているため、公民館1館当たりの人口は増えることとなります。

合併後、まちづくり協議会が発足し、公民館の運営にあたっては「将来的にまちづくり協議会が中心となって公民館の運営を行っていただきたい」「これまでの陳情・要望のスタイルから、地域でできることは自らまちづくりに汗を流していく主役であってほしい」との説明がありました。当時から5年が過ぎた今、これからまだ5年程度を目途に公民館をまちづくり協議会にシフトしていくという、なぜそこまで時間が掛かっているのでしょうか。

教育長

人口規模の違いによる不公平があるのではないかとということですが、旧町時代、それぞれの地域に様々な事情や特性などがあったことから、現在もその状態を維持してきました。坂井自治区は4つの小学校区に1箇所の公民館がありますが、人口が少なくても機能しています。一方で三国自治区の東部地区や木部地区では小さいエリアに公民館がそれぞれ設置され、しかも隣接していることから、できれば一つの公民館が良いのではないかと考えております。また、新保地区と浜四郷地区は同じ三国西小学校の校区となっております、こちらでもできれば一つの公民館が良いのではないかと考えております。しかし、公民館をまちづくり協議会活動の拠点と位置づける中で、市の一方的な考えだけで進めることは出来ません。

また、丸岡自治区の場合は、それぞれの小学校区内に1つの公民館が設置されている中で、3つの地区には第二公民館があるのが現状です。合併後も厳しい財政状況が続く中で、様々な施設の統廃合を含めた見直しを進めていく中で、利用者が特定される第二公民館を市から切り離し、地域にお任せするのが効率的であると考えています。例えば、長畝第二公民館につきましては、長畝公民館を利用していただき、長畝小学校区全体で1つの公民館を利用いただくのがよいのではないのでしょうか。

副市長

公民館の運営をまちづくり協議会が担っていくことを目標にさせていただきたいと申し上げました。丸岡自治区は皆さんの協力が得られ非常に早く進めることができました。丸岡自治区では4年目に入っておりますが、他の自治区ではまだ3年目の地域もあり温度差があります。地域の実情にあった公民館の運営や活用をしていただくと利用度も高まり、相互にメリットがでくると考えます。現在は条例や規則に従ってどの公民館も横並びの運営を行っていますが、地域によっては頻りに利用される時間帯や曜日などが少しずつ違ってきています。まちづくり協議会で運営をしていただければ、地域の実情に合わせた利用の仕方や様々な活動など、これまでよりも公民館の範囲が広がってくるのではないのでしょうか。

まだ5年間もかかるのか、というお話を頂きましたが、早く進めたいという地区があれば、率先して手を上げていただきたいと考えています。諸問題をクリアするなど準備期間を経た上でそういった地区にお願いしたいと考えています。できれば再来年くらいに最低限、地域自治区毎に1箇所はお願いしたいと考えています。いずれは23のまちづくり協議会に全ての公民館を運営していただき、公民館を大いに活用していただきたいと考えています。

さらに、名称もコミュニティセンターなどとして絶えず地域の方が出入りするような施設

として、地域や市の活性化に繋げていただきたいと思います。

方向性を廃止と示した施設については、「明日にでも」という話ではなく、老朽化が進む中、将来的に再整備するよりもその1つの施設に集約するなど、効率性を考慮しているわけで、機能そのものを廃止するわけではないのでご理解いただきたい。実際に施設廃止をする前提として、地域の方と十分話し合っただけで実行に移してまいります。

瀬戸区長(高棕地区)

5年を目途に公民館の運営をまちづくり協議会にするということですが、将来的には、現在の市職員の代わりに、まちづくり協議会の交付金で人を雇うことになるのでしょうか。まちづくり協議会は法人格を持っていませんが、人を雇用したりすることができるのでしょうか。

教育長

館長については臨時の特別職でお願いしています。丸岡自治区を例に申し上げますと拠点公民館へは市の正規職員を1人配置し、その他の公民館には臨時職員を3人配置しております。今後まちづくり協議会へ移行することになりますと、その職員も全てまちづくり協議会へお願いすることができるかについては今後の課題になると思います。

また、23のまちづくり協議会がある中で、特に丸岡自治区のまちづくり協議会は早くに設立されており積極的に頑張らせていただいていると感じます。坂井市のまちづくりを進めていくリーダー的役割としてご理解・ご協力をお願いいたします。

副市長

まちづくり協議会へ人件費を含めて委託という形を想定しております。生涯学習の講座なども委託内容のメニューにしていきたいと考えております。実際に先進都市の事例ではまちづくり協議会で人を雇って事業を進めています。具体的に坂井市ではどのような手法、手続きをとるのがよいのか1年程度掛けて研究し、手を上げていただけたところに積極的に支援していきたいと考えています。

江川座長(福井県立大学)

公民館についてこれだけは言っておきたい事や、これまでの発言と違う視点から何かご意見があればお願いします。

清水会長(鳴鹿まちづくり推進協議会)

心配な点は、管理運営を任せられることになると、施設の大規模修繕等が発生した場合の費用は市で見ただけなのでしょう。地域で修繕費用を調達し自分たちで対応しなければならないことになると公民館エリアの人口が小さいところほど一人あたりの負担は大きくなります。これから細かいところを検討していくことになるのだと思いますが、住民サービスに差が出ないように配慮をお願いします。

また、管理運営を任されることになった場合、事業の規模や量によって交付される交付金に差がでるのでしょうか。

職員採用にあたってはまちづくり協議会で任されることになるのでしょうか。

副市長

管理運営や修繕にかかる費用については、市で負担していきます。公民館をまちづくり協議会にお願いするのは、経費節減といったことだけではなく、今以上に活発に公民館でのいろいろな活動に取り組んでいただきたいからです。

今回の今後の公共施設のあり方については、経費だけの問題で進めているわけではなく、その地域で施設を有効活用していただくために進めています。

清水会長(鳴鹿まちづくり推進協議会)

個人的には市が示した方向性に賛成です。前向きに考えているからこそ、不安が生じる事にご理解いただきたい。

竹内委員(地域協議会)

磯部の公民館の前にあるテニスコートについては見直し検討対象外としておりますが、どのような方針でしょうか。

行政経営課 事務局

今回は、上屋のない施設、グラウンドやテニスコートなどは対象としておりません。

竹内委員(地域協議会)

磯部地区区長会としては地区住民や市民の利用が少ないことから廃止の要望をしております。

竹腰区長(高椋東地区)

春江図書館と丸岡図書館に要する経費が同規模であるのに対して、利用状況には大きく差があります。スペース構成が異なるようですが、これが原因で利用者数に差が出ているのでしょうか。市としてはどういった分析をされていますか。丸岡図書館についての改善方を考えているのでしょうか。

教育部長

合併後、市内4箇所の図書館は市外の方も利用できるよう広く解放してきたわけですが(合併前の旧町時代は図書館によって市外利用を制限していた館もあります)、特に春江図書館では、隣接する福井市民の利用が3割以上と非常に多くなっていることから丸岡図書館との差が生じております。

図書館の使命は、広く地域に開かれる事が求められている中で、反対に福井市は市外の方の利用は認めていません。福井市に対しても改善の申し入れをしているところです。

江川座長(福井県立大学)

今回の資料では4つの図書館を将来的に特色ある施設に特化していくとあります。個人的にも期待しています。

野田委員(地域協議会)

丸岡子育て支援センターの移転先はどのように考えているのでしょうか。

福祉保健部長

丸岡子育て支援センターは、設置当初は霞保育所の中に併設しており、現在は旧保健センター内に移転しました。旧保健センターは老朽化が著しく進んでいることから、現在、移転先を検討しているところです。2、3箇所について利用可能性を打診しており検討中であります。

清水会長(鳴鹿まちづくり推進協議会)

地元鳴鹿地区には六呂瀬古群という貴重な文化財があります。地元のまちづくり協議会でもこれらの文化財を中心に、独自でパンフレットを作成するなど活動を展開しております。三国の龍翔館を充実させていくとの方針ですが、県内外から訪れる観光客等に気軽に見ていただけるよう、要望となりますが博物館は市の中心にあるのが理想だと考えます。

教育部長

六呂瀬山古墳群の試掘調査を行っているところです。この調査は平成25年までの予定となっています。調査によって史跡としての範囲が決まれば、古墳公園としての整備を予定しております。公園整備を進めていく中で、埴輪など出土品の展示ができる可能性もあり、今後、公園の内容を検討していきたいと考えています。

南川会長(城のまちまちづくり協議会)

丸岡城は歴史的な柱と観光的な柱の2つの側面がありますが、行政にはこの2面を統括する組織がありません。行政として対応できる体制・組織を整えていただきたいと思います。

江川座長(福井県立大学)

地域活性化、観光振興の視点で重要な指摘が幾つか出てきています。統廃合というだけではなくこういった視点を重視して進めていただきたいと思います。

江川座長(福井県立大学)

まだまだ、言い足りない点、時間の都合で遠慮された方など、そのような方は、是非事務局へのメールやファックスでご意見をいただきたいと思います。

丸岡自治区は幼保一元化でもまちづくり協議会でも、市内で先行する地域であるので、今後とも地域のまちづくりを牽引していただきたいと思います。